

ある少年の正月の日記

小川未明

青空文庫

がつついたち
一月一日

学校がっこうから帰かえると、お父とうさんが、「今年ことしから、おまえが、年始ねんしにおまわりなさい。」といつて、お父とうさんの名刺めいしを四枚まいお渡わたしな
さつた。そうだ、僕ぼくは、十二じふにになつたのだ。十二じふにになると、お父とう
さんのお代かわりをするのか、知しらないけれど、急きゆうに、自分じぶんでも大お
人となになつたような気きがする。お母かあさんから、あいさつのしかたを
ならつて、まずお隣となりからはじめることにして、出でかけた。

がつつか
一月二日

たくさんの年賀状ねんがじようの中なかに、僕ぼくにきたのが二枚まいあつた。川田かわたと
西山にしやまからだ。学校がっこうで、いちばん親したしい二人ふたりなのだ。なぜ、僕ぼく

も早く書いて出さなかつたらう。もらつてから、出すのでは、なんだか冷淡のような気がする。いつそ、二人のところへ訪ねてゆこうかしらんと考えたが、お正月は、めいわくだらうと思つてやめた。二枚とも、「遊びにきたまえ。」と、書いて出した。

一月三日

お隣の勇ちゃんがきて、寒ぶなを釣りにいかないかと誘つた。勇ちゃんは、中学の三年生だ。去年の暮れ、釣り堀へいったときに、おじいさんが、「新年は、三が日の間懸賞つきで、寒ぶなをたくさんいれますよ。」と、いったからだらう。僕、新年早々、殺生するのはいやだといつたら、勇ちゃんもゆくのをよして、二人で、ボールを投げて遊んだ。

がつよつか
一月四日

ひる 昼ごろ、カチ、カチ、という、ひようし木の音がきこえる。今年としから学校がっこうへゆく弟おとうとが、「あいつはせつかちだから、おもしろい！ やあやあ、コテツが、泣なきおるわ。いま血ちをすわせてやるぞ……。」と、紙芝居かみしばいの、チャンバラの手てまねをして駆かけだす。僕は、悲観ひかんしてしまった。

がついつか
一月五日

ねえ 姉さんが、カルメ焼きやを造つくるといって、火ひを落おとして、新あたしい畳たたみの上に、大おおきな焼やけ穴あなをあけた。そして、お母かあさんにしかられた。いつも、僕ぼくたちが、畳たたみをよごすといって、しかられるので、ちよつと痛つう快かいに感かんじた。

がつむいか
一月六日

外そとで、たこのうなり声こゑがする。窓まどを開あけると、あかるく日ひが射さし込む。絹糸きぬいとよりも細ほそいくもの糸いとが、へやの中なかにかかつて光ひかつている。へやがあたたかなので、目めにはいらぬが、冬ふゆもこうしてごく小ちいさなくもが、活かつ動どうしているのを知しった。

がつなのか
一月七日

明日あすから、学がっ校こうだ。また、予よ習しゅうもはじまる。大おおいにしつかりやろう。橋本先生はしもとせんせいは、僕ぼくたちのために、いつもおそくまで残のこっていてくださる。あ、先せん生せいに、年賀状ねんがじょうをあげるのが忘れわすれた。しかし僕ぼくは、ありがたく思おもっている。あした、お目めにかかつて、おめでとうをいおう。今夜こんや、これから、なにをして遊あそぼうか

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 8」講談社

1977（昭和52）年6月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第6刷発行

親本：「青空の下の原っぱ」六文館

1932（昭和7）年3月

初出：「朝日新聞」

1932（昭和7）年1月3日

※表題は底本では、「ある少年『しょうねん』の正月『しょうがつ』の日記『つき』」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：飛竜

2017年12月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ある少年の正月の日記

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>